

小学校 高学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名 温かい心で [B 親切、思いやり]
- 2 ねらい 友子ときくさんの姿から、相手の立場に立ってどのように接し、対処することが相手のためになるのかを考え話し合うことを通して、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする態度を養う。

教材名 「きくさんのなみだ」(出典「彩の国の道徳(小学校高学年)夢にむかって」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、内容項目「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」に関するものである。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。

高学年の段階においては、自他を客観的に捉えることができるようになってくる。そのため、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。また、家の周囲や学校といった狭い範囲だけでなく、地域社会における公共の場所など活動範囲がより一層広がり、より多様な人々と接する機会が多くなってくる。

指導に当たっては、特に相手の立場に立つことを強調する必要がある。自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。また、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を児童が接する全ての人に広げていくことも大切である。そのためには、児童が多様な人々と触れ合い、助け合って何かをするような機会を増やすとともに、それらの体験を生かし、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する必要がある。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について 一略一

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、高齢者への接し方に悩む友子が学校での「ふれあい広場ボランティア」に参加し、82歳のきくさんとの触れ合いを通して、相手のことを考え思いやりの心をもって接することの大切さを感じるといった内容である。きくさんにどのように接したらよいのか悩む友子の姿を通して、相手の立場に立ってどのように接し、対処することが相手のためになるのかを深く考えることのできる教材である。

そこで、話合いの視点を次の3つの発問から構成する。

① 話しかけても何も言わないきくさんを見て、友子はどんな気持ちだったか。

ここでは、クラス全体で話し合うことで、高齢者との関わり方への不安や理解がなかなかできない時に感じる戸惑いに共感させる。

② 一生懸命ストローのさし口を探しているきくさんを見て、自分ならどうするか。

ここでは、児童が友子役、教師がきくさん役で役割演技をする。役割演技で行った行為の理由を聞いたり、周りで見ている児童に気付いたことを聞いたりすることで、行為の理由の共通点が全て「きくさんの立場」になっていることに気付かせる。

③ きくさんに「ありがとう」と言われ、きくさんの涙を見た友子はどんな気持ちだったか。

ここでは、きくさんの涙を見て胸がいっぱいになり、心の奥に温かいものがこみ上げてきた友子の様子を押しさえ、きくさんのことを思い考えて行動した友子の気持ちがきくさんに伝わったことに気付かせ、課題の解決につなげる。

以上のことより本主題を設定した。

4 人権教育上のねらい（個別の人権課題「高齢者」）

高齢者の立場に立って考え話し合う活動を通して、高齢者に対して一律に弱者とした見方をするのではなく、相手の立場に立って関わろうとする態度を育てる。

5 人権教育上の視点

(1) 高齢者の気持ちや考えを尊重しようとしている。（価値・態度）

(2) 高齢者の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像することができる。（技能）

6 学習指導過程

◎人権教育上の配慮

	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 親切にされた時の気持ちについて発表する。 ・今までに親切にされたことはありますか。また、どんな気持ちになりましたか。 2 本時の課題を知る。 ①人に親切する時に大切なことは何だろう。	・転んだときに声をかけてもらった。 ・けがをした時に保健室に連れて行ってもらった。けがをしていて悲しかったのでうれしかった。	・親切にされた経験を振り返ることで、本時の主題に対する興味関心を高め、人に親切にする時に大切なことは何なのかという課題へつなげる。 ・学習課題を提示し、授業への見通しをもたせる。
展開	3 教材の登場人物や条件・状況について知る。	登場人物 友子 きくさん 条件・状況 ・おばあさんに親切にしたら、断られてしまった。 ・お年寄りの気持ちがよくわからなくなった。 ・福祉センターのボランティアに参加した。	

8 本時の授業の評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・ 友達の考えを聞き、親切にすることについて様々な立場から考えている。
(観察・発言・表情)

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・ 親切や思いやりについて、自分との関わりで考えている。(振り返りカード・発言)

9 板書計画

課題

人に親切する時に大切なことは何だろう。

場面絵 ①

- ・ 手伝う。
- ・ 見守る。
- ・ 声をかける。

場面絵 ②

きくさんの
立場に立って

- ・ 自分の気持ちがきくさんに通じてうれしい。
- ・ きくさんのことを考えて行動したことがよかった。
- ・ きくさんの気持ちがわかってきた。
- ・ また手伝いたい。

きくさんの
立場に立って

- ・ なんて答えてくれないの。
- ・ きらわれているのかな。
- ・ 何を考えているかわからない。
- ・ せっかく話をしたいと思って来ているのに。

友子

- ・ 親切にしたら、断られてしまった。
- ・ お年寄りの気持ちがよくわからなくなった。
- ・ 福祉センターのボランティアに参加した。

きくさんのなみだ

きくさん

相手の立場に立って考える。

10 資料

- (1) 行為の意味 宮澤章二
「『私たちの道徳』小学校5・6年」
(文部科学省) 62ページ

行為の意味 宮澤章二

—— あなたの〈こころ〉はどんな形ですか
とひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも〈こころ〉は見えない
けれど、ほんとうに見えないのであろうか
確かに〈こころ〉はだれにも見えない
けれど〈こころづかい〉は見えるのだ
それは、人に対する積極的な行為だから
同じように胸の中の〈思い〉は見えない
けれど〈思いやり〉はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為なのだから
あたたかい心が、あたたかい行為になり
やさしい思いが、やさしい行為になるとき
〈心〉も〈思い〉も、初めて美しく生きる
—— それは、人が人として生きることだ

(2) 場面絵
①



②



話すことにした。友達との会話や今夢中むちゆうになつて遊あそんでいることなどを話した。

すると、だまって聞いているきくさんの表情ひょうじようが楽しそうに見えてきた。そして、そんなきくさんの顔を見て、友子も少しずつ楽しくなつてきた。

おやつおやつの時間になり、友子はきくさんといっしょに食べた。牛乳を飲むとき、きくさんが牛乳パックの口になかなかストローをさせなでいることに気づいた。きくさんは、目を細めて一生けん命ストローのさし口をさがしている。友子は、しばらくその様子を見ていた。すると、きくさんの手がすべって、あやうく牛乳パックが落ちそうになった。

友子ははっとして、思わず手をさしのべた。そして、パックの口にストローをさしてきくさんに手わたした。すると、

「ありがとうね。」
と、きくさんが小さな声を出した。

初めてきくさんの声を聞いて、友子はおどろいた。そし

て、その小さな声が心の中に大きくひびいた。

「今日は一日、どうもありがとうございました。」
最後に、友子がきくさんとあく手をすると、きくさんの手はとてもあたたかかった。きくさんの顔を見ると、そのやさしい目のおくになみだがかがやいていた。友子も胸むねがいっぱいになり、心のおくからあたたかいものがこみ上げてきた。

帰り道、きくさんのなみだを思い出し、友子は心の中でそつとつぶやいた。

(きくさん、ありがとう。)

(出典 「彩の国の道徳(小学校高学年) 夢にむかって」
埼玉県教育委員会)

「お年よりの気持ちって、よくわからない…。」

学校の帰り道、友子が歩道橋のところまで来ると、大きな買い物のおおばあさんが、階段をゆっくり登って行くのが見えた。友子は少し迷ったが、思い切って、

「荷物を持ちましょうか。」

と手をさし出した。しかし、おばあさんは、

「だいじょうぶ。」

と、一こと言っただけのまま歩いて行ってしまった。

「遠りよしたのかもしれないわね。」

とお母さんは言ったが、友子の心は何かすっきりしなかった。

それからしばらくたったある日、友子は学校で、『ふれあい広場ボランティア募集』のポスターを見つけた。老人ホームのお年よりとゲームをしたり、おやつを食べたりしてふれあうもおもしろい、福祉センターで開かれるのだ。友子は、思い切ってボランティアに参加することにした。

いよいよ、ふれあい広場の当日となった。

(お年よりとうまく話ができるのだろうか。)

友子は朝から不安でいっぱいだった。

会場に行くと、小学生の子どもたちの中に、車いすの人やつえをついたお年よりの人がいた。

友子は、八十二歳の吉田きくさんというおばあさんと組むことになった。

「きくさん、こんにちは。」

と話しかけてみた。でも、おばあさんは何も言わない。少し大きな声で話してみたが、やはり反応がなかった。

(やっぱり、お年よりの気持ちを理解することはできないのかな…。)

友子にとって、ボランティアは初めての経験で、おろおろするばかりであった。

すると、老人ホームの職員の方が、

「きくさんは、あまり話さないけれど、ちゃんと聞こえてくるから、だいじょうぶよ。」

と、言ってくれた。友子は少しほっとした。何を話したらよいかわからなかったので、とりあえず、学校での様子を